



S.Katsura

THE KANSAI TELEVISION CO.LTD.SHOW ROSE STAKES

第42回 関西テレビ放送賞 ローズステークス (GII)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 52,000,000円 21,000,000円 13,000,000円 7,800,000円 5,200,000円
付加賞 1,064,000円 304,000円 152,000円



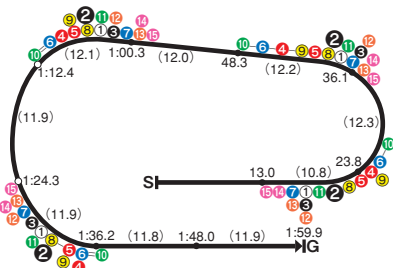
レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

牝、3歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 馬齢重量

2024.9.15 中京 曇・稍重 芝2000m (国際 指定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	②	クイーンズウォーク	牝 3	55	川田将雅	1:59.9	7-6-6-6	33.5	522(±0)	4.9②	中内田充正(栗東)	111
2	④	チェレスタ	牝 3	55	西村淳也	1½	3-3-3-2	34.3	486(-2)	26.8⑦	松下武士(栗東)	108
3	⑩	セキトバイースト	牝 3	55	藤岡佑介	アタマ	1-1-1-1	35.8	452(+14)	51.6⑩	四位洋文(栗東)	108
4	⑤	タガノエルピーダ	牝 3	55	幸 英明	½	5-5-4-4	34.2	452(+12)	12.3④	斉藤崇史(栗東)	107
5	⑬	レガレイラ	牝 3	55	C.ルメール	クビ	15-15-15-15	33.1	468(+10)	1.7①	木村哲也(美浦)	
6	⑥	レディヴァリユー	牝 3	55	永島まなみ	½	2-2-2-2	34.6	442(±0)	45.3⑨	小林真也(栗東)	
7	⑨	ラヴァンダ	牝 3	55	岩田望来	¾	3-4-4-4	34.4	476(+10)	29.2⑧	中村直也(栗東)	
8	①	カニキュル	牝 3	55	戸崎圭太	1½	9-8-8-8	34.1	494(-4)	17.7⑤	菊沢隆徳(美浦)	
9	③	オーロラエックス	牝 3	55	松山弘平	1	9-10-10-10	34.1	488(+4)	8.1③	杉山晴紀(栗東)	
10	⑦	サンセットビュー	牝 3	55	鮫島克駿	½	12-10-12-11	34.0	458(+6)	108.0⑬	新谷功一(栗東)	
11	⑭	サフィラ	牝 3	55	北村友一	クビ	14-13-13-13	34.0	454(+6)	67.0⑫	池添 学(栗東)	
12	⑮	ハワイアンティアレ	牝 3	55	池添謙一	1½	12-13-13-13	34.2	434(+6)	80.9⑮	松永幹夫(栗東)	
13	⑪	フレミングフープ	牝 3	55	M.デムーロ	2½	8-8-8-8	35.1	482(+2)	20.8⑥	友道康夫(栗東)	
14	⑧	ザブライド	牝 3	55	和田竜二	1½	9-10-10-11	35.1	474(+8)	111.3⑭	西村真幸(栗東)	
15	⑫	ラビットアイ	牝 3	55	横山典弘	10	6-6-6-6	37.2	488(+14)	50.5⑫	鈴木孝志(栗東)	

単勝②490円(2½%) 複勝②200円(2½%) ④630円(8½%) ⑩950円(9½%) 枠連②-③1,230円(4½%)
馬連②-④4,030円(12½%) ワイド②-④1,190円(12½%) ②-⑩2,520円(24%) ④-⑩9,110円(65½%)
馬単②-④7,250円(23½%) 3連複②-④⑩45,680円(117½%) 3連単②-④⑩196,350円(464½%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
36.1 - 48.3 - 1:00.3 47.5 - 35.6

アラカルト

- ・川田将雅騎手はアートハウスで制した22年に続くローズS 5勝目。JRA重賞は本年8勝目、通算138勝目
- ・中内田充正調教師はアートハウスで制した22年に続くローズS 4勝目。JRA重賞は本年3勝目、通算40勝目
- ・キズナ産駒はJRA重賞通算32勝目
- ・クイーンズウォークの馬体重522kgは88年シノロマンの馬体重498kgを更新する本競走優勝馬の最高馬体重記録
- ・クイーンズウォーク、チェレスタ、セキトバイーストは秋華賞(GI)に優先出走できる

クイーンズウォーク Queen's Walk

牝 黒鹿毛 2021.3.14生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・(有)サンデーレーシング 栗東・中内田充正厩舎
馬名意味・ロンドンのランベスブリッジとタワーブリッジ間の
遊歩道

ウェイヴェルアベニューCAN系 F10-a

キズナ 青鹿毛 2010	ディーブインバクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA
		ウインドインハーヘアIRE
	キャットクイルCAN 鹿毛 1990	Storm Cat
		Pacific Princess
ウェイヴェルアベニューCAN Wavell Avenue 鹿毛 2011	Harlington 黒鹿毛 2002	Unbridled
		Serena's Song
	Lucas Street 栗毛 2004	Silver Deputy
		Ruby Park

5代までのインブリード：Mr.Prospector M5×M5

INTERVIEW

村上隆博 厩舎長(ノーザンファーム早来)

最後の一冠は勝ちたいです

春のクラシックではこの馬らしいレースができませんでした。能力の片鱗は見せてくれました。ノーザンファームしがらきに研修へ行った際に騎乗もさせてもらいましたが、まだ成長途上とはいえ、こちらにいた頃よりもかなり立派になっていました。ローズSではこの馬らしいフットワークの良さが走りにもあらわれていたので、最後の一冠は勝ちたいです。

N.Inaba



2020年の2歳マイル王グレナディアガーズの半妹にあたる本馬は、2月のクイーンCを豪快に差し切ってクラシックの中心勢力に浮上。桜花賞は内枠が響いた格好で8着に敗れたが、オークスは先行策から4着に踏ん張り、世代トップレベルの力を示した。バテてはいなかった逃げ、先行勢を鋭く捉えたこの日の決め手、また、兄とはタイプが異なり、早くから中距離向きと見立てられていた経緯からも、本番に直行する2頭の女王——桜花賞馬ステレンボッシュ、オークス馬チエルヴィニア——との再戦が楽しみだ。

父キズナ

北海道新冠町 株式会社ノースヒルズ生産 詳細はP.2参照

母ウェイヴェルアベニューCAN

北米20戦7勝(BCフィリー&メアスプリント・米^G₁、シャインアゲインS・米、BCフィリー&メアスプリント・米^G₁2着、ギャラントブルームH・米^G₂2着、ベッドオーローゼスH・米^G₃2着、マディソンS・米^G₁3着、ギャラントブルームH・米^G₂3着、ザドラカルタS・加3着)、17年輸入

グレナディアガーズ(18 牝父Frankel)持込 中央15戦3勝(朝日杯フューチュリティS^G₁、阪神C^G_{II}、阪神C^G_{III}2着2回、ファルコンS^G_{III}2着、N HKマイルC^G₁3着、京成杯オートムH^G_{III}3着)、英1戦0勝、種牡馬アストロフィライト(19 牝父ディーブインバクト)中央7戦2勝 兎ソパズレーン(20 牝父ロードカナロア)中央3戦0勝

クイーンズウォーク 本馬(21 牝父キズナ)中央6戦3勝(ローズS^G_{II}、クイーンC^G_{III}、オークス^G₁4着) 獲得総賞金122,926,000円
ウェリントンアーチ(22 牝父ドゥラメンテ)
(23 死産)
(24 牝父サートウルナーリア)

祖母ルーカスストリート Lucas Street

カナダ産 北米5勝(オンタリオファッションS・加L2着、シェイディウエルS・加2着、スコッティアナS・加2着)

バスシェパバーク Bathsheba Park(10 牝父Harlington)韓4勝

ウェイヴェルアベニューCAN(11 前出)

スモールヴィクトリーズ Small Victories(13 牝父Marchfield)北米10勝
ソリティアズヴィジョンCAN(14 牝父Court Vision)北米、加1勝、輸入繁殖牝馬、オウダーリン Oh Darlin(ジュベナイルフィリーズS・米2着)の母

曾祖母ルービーバーク Ruby Park

カナダ産 北米4勝(シェイディウエルS・加、ジョージCヘンドリーH・加^G₃2着、バラードS・加2着2回、ウィムジカルS・加L3着)

ルーカスストリート Lucas Street(04 前出)

エメラルドクレセント Emerald Crescent(06 牝父El Prado)北米9勝
コーラルポイント Coral Point(11 牝父Graeme Hall)ブエルトリコ11勝
(プレンスイピカ賞2着)

母の父ハーリントン Harlington

アメリカ産 北米6勝(ガルフストリームパークH^G₂)

[BMS代表産駒]グレナディアガーズ(前出)、クイーンズウォーク(本馬)

鮮やかな差し切り勝ちで最後の1冠へ

中京を舞台に争われた関西の秋華賞トライアル・ローズSにはホープフルSの覇者レガレイラが参戦。牡馬のクラシックロードを歩んだ春も、一線級と互角に渡り合った皐月賞6着、ダービー5着、女丈夫は、単勝1・7倍と圧倒的な支持を集めた。しかし身上の末脚は不発に終わり、同馬は強襲及ばずの5着まで。これを尻目に対抗候補と目されていたクイーンズウォークが鮮やかに差し切り、最後の1冠に向けて大きく前進した。

向正面では大逃げる態勢を築く。クイーンズウォークの川田将雅騎手は縦に長く延びた隊列の6番手につけ、一角崩しの期待をかけられた2戦2勝の新星オーロラエックスは馬群の後方を追走。ゲートは五分に出たものの、ダッシュがつかなかったレガレイラは最後方で末脚勝負に構えた。

気分よく逃げたセキトバイーストは残り800m地点からさらにペースを上げ、10馬身余りのリードをつけて直線へ。坂を駆け上がり、チェレスタをはじめとする好位勢が背後に迫ってからもしぶとく粘る。とはいえ、自分のリズムを守って運んだ川田騎手が馬場の外めに持ち出して仕掛けると、クイーンズウォークは抜群の末脚を発揮。一気に先頭へ突き抜け、ゴールを駆け抜けた。

2020年の2歳マイル王グレナディアガーズの半妹にあたる本馬は、2月のクイーンCを豪快に差し切ってクラシックの中心勢力に浮上。桜花賞は内枠が響いた格好で8着に敗れたが、オークスは先行策から4着に踏ん張り、世代トップレベルの力を示した。バテてはいなかった逃げ、先行勢を鋭く捉えたこの日の決め手、また、兄とはタイプが異なり、早くから中距離向きと見立てられていた経緯からも、本番に直行する2頭の女王——桜花賞馬ステレンボッシュ、オークス馬チエルヴィニア——との再戦が楽しみだ。